

市川自然博物館

増刊号 だより

(通巻第20号)



企画展
江戸川放水路
の自然

7月19日～9月20日

会場 自然博物館

特別展示室

(入館無料)

(月曜休館)





放水路は川？海？

江戸川放水路は、行徳橋のところにある堰（行徳可動堰）によって、江戸川本流と仕切られています。この堰は普段は閉じられており、そのため、放水路と江戸川本流の間には、水の行き来がほとんどありません。放水路は、実質的には東京湾側にだけ開口している入り江で、放水路の水は東京湾の影響を強く受けています。

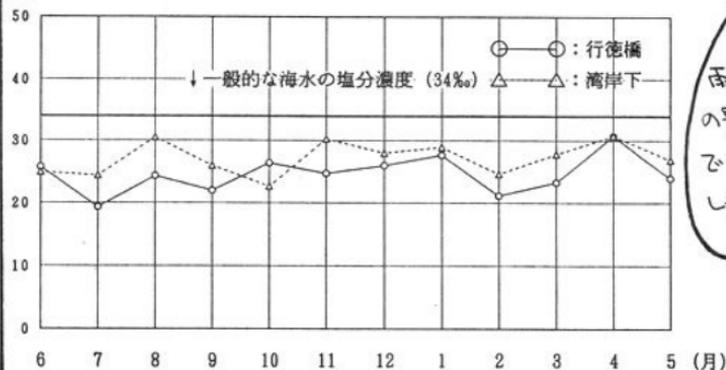
しかし、堤防から浸出する雨水や、可動堰の通水口を通して流入する江戸川の水の影響もあります。江戸川放水路の環境は、汽水（海水と淡水がまじった状態）の環境ということが出来ます。

水の動きの概略



江戸川放水路の水質—塩分濃度—（1991年～1992年）

(%)



雨などの影響で変動します

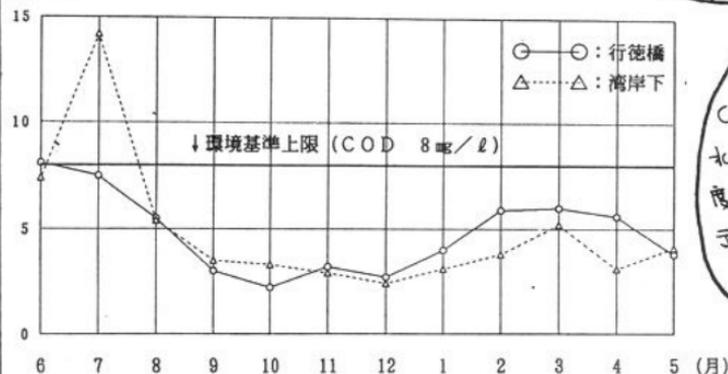


放水路は汚くないの？

真間川や大柏川、国分川など、市内を流れる小河川は、いずれも生活排水などの影響で汚染が進み、生物の生息に適した状態とはいえません。江戸川にしても、水質はそれほど良好ではありません。しかし江戸川放水路は、6～7月には水質がかなり悪化しますが、他の時期は環境基準を概ね満たしています。生物の生息に適した状態だといえます。

江戸川放水路の水質-COD- (1991年～1992年)

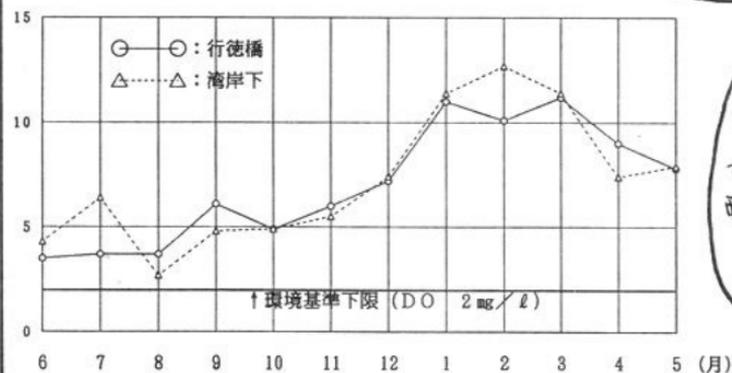
(mg/l)



CODは
水の汚れの
度合いを
示します

江戸川放水路の水質-DO- (1991年～1992年)

(mg/l)

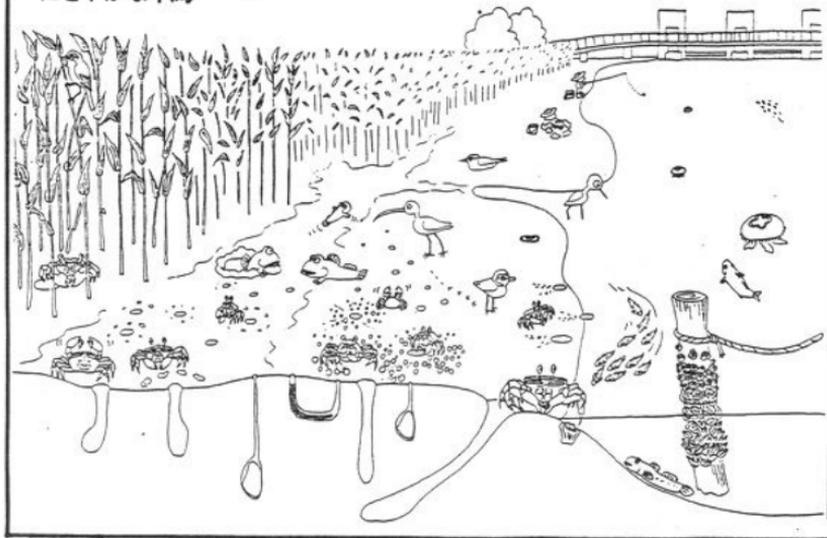


DOは
水中の
酸素量
です



放水路には干潟がある

にぎやかな干潟



江戸川放水路は、市内でも有数の貴重な自然環境です。どこが貴重かという、それは、干潟が残っているところです。干潟は引き潮のときに現われ、満ち潮になると海中に没する平らな場所です。干潟には、潮によって打ち上げられた生物の遺骸やプランクトンが栄養分として蓄積され、その栄養分を食べる生物が多く生息しています。さらにそれらの生物を食べる生物も生息し、... という形で、たくさんの種類の生物が暮らしています。

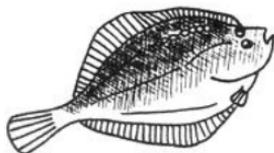
干潟は一見するとただの平らな場所ですが、柔らかい泥の場所や、やや固い砂の場所、ヨシ原、潮だまり、水路など多様な環境があります。泥の中も生活場所として利用できる、生活のための空間がふんだんにあるのです。

平らな干潟は、水深がわずか数～数十センチという環境もつくりだします。この浅い環境は、マハゼやカレイなどの幼魚が成長する場所です。カニが、卵からかえった幼生を海中に放出する場所でもあります。

海水は、干潟で薄く伸ばされます。アサリなどの貝がプランクトンを食べ、表面からは酸素が溶け込み、海水は浄化されてきれいになって沖へ戻っていきます。干潟は、海水の浄化機能も果たしています。



こんな生き物たちが



↑イシガレイ
川と活発に泳ぐ



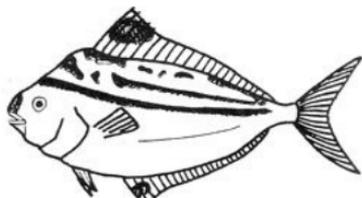
↑コナ
水の中の暴走者
エビやハエが好物



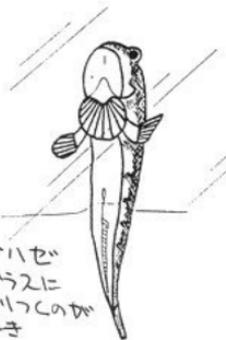
↑トサカキンゴ
水の中の愛まう者



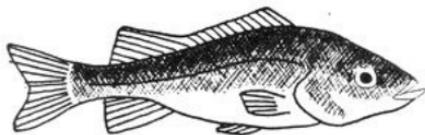
↑ボラの子
活発に泳ぐ



↑ヒイラキ
金属光沢の体が美しい



↑トビハセ
- からえに
はいつのが
好き



↑スズキの子
大きな眼で獲物を
さかす。

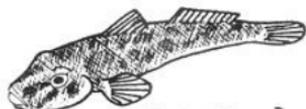


↑アハハセ
体にたじまるとよじまがある

水槽に登場します (予定)



♂ ママキチガ
青い斑点が美しい



♀ マハセの子
何でもよく食べる



♂ イシガニ
たはつよいが泳ぎは下手

♂ タツオトシガ
いぼど
何にでも
まきつく



♂ スジエビ
水たらの清掃屋さん



♂ スジハセ
餌時以外は
隠れている

♂ マメコアジガニ
水たらを
元気に走りまわす



♂ ヨロイソギンチャク

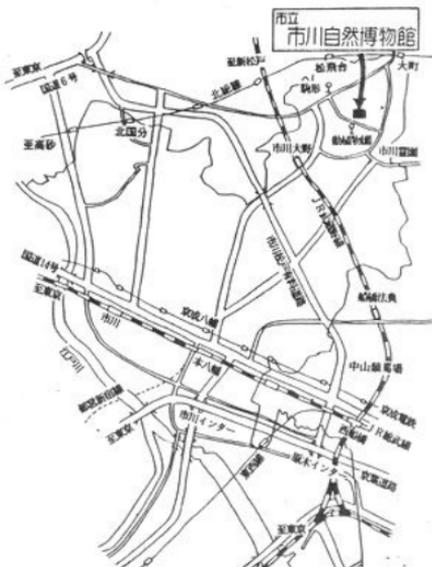


♀ ユウレイボウ
カキ殻から
勝手に
のびてきた

♂ ヒトデの一種



水たらの清掃屋さん Part 2



< 開館時間 >

午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分

< 交通 >

- JR 本八幡駅から京成バス
 - ・「動植物園」行き
終点下車すぐ
 - ・「大町駅」行き
「駒形」下車徒歩10分
- * どちらも
 - 京成線「京成八幡」駅
 - JR 武蔵野線「市川大野」駅
に停車します
- 北総線大町駅から京成バス
 - ・「本八幡駅」行き
「駒形」下車徒歩10分

🐟 ミニ・シンポジウム『江戸川放水路の将来を考える』 🐟

日時 7月26日(日) 午後1時～4時

(午前11時～11時30分、プレ企画として)

映画『或日の干潟』オリジナル版上映

会場 市川市女性センター(JR市川駅下車 徒歩3分)

『或日の干潟』

下村兼史 監督

昭和15年理研科学映画作品

🐟 🐟 🐟 江戸川放水路の観察会 🐟 🐟 🐟

「7月の自然観察会」

1. 日時 7月19日(日)
午前9時30分～11時30分
2. 内容 干潟の生物の観察
3. 申込期間 7/6～7/11

「8月の自然観察会」

1. 日時 8月16日(日)
午前9時30分～11時30分
2. 内容 トビハゼの観察
3. 申込期間 8/3～8/8

*申込方法

往復はがきに、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を記入のうえ、申込期間内に自然博物館までお送りください。各回、先着20名様で締め切らせていただきます。

市川市川自然博物館だより

第4巻 4号 (通巻第20号)

発行日/平成4年7月1日

編集・発行/市川市川自然博物館

〒272 千葉県市川市大町 284番地

☎ 0473(39)0477

次号は8月1日発行